



神様からの贈り物



筆者と子どもさん。右はおしりかじり虫！

私は上の子が二歳の時、益城に越して来ました。子供三人の核家族です。早いもので十一年になります。子供が小さい頃は、夫の帰宅が遅く、母子家庭、育児ノイローゼとばかりおりました。この広報の読者のひろばは、私のはけ口で、「三匹の子ブタのママ」のペンネームで何回か載せて頂きました。男女共同参画と聞くと同感し、大家族で有名な岸信子さんの講演会では、ご主人に「どうしてそんなに子煩悩なんですか」と質問した事もあります。それ

くらい疲れていました。

上の子が小学一年生になった年、私は子供からおたふく風邪をもらい、それがきっかけで、甲状腺腫瘍が見つかりました。早期発見で、すぐに手術となりました。私は以前看護師として働いていた職場に入院すること、趣味のようにしていた献血が出来ない体になった事に、かなり落ち込みました。子供達は実家に預ける事になり、娘は一ヶ月程でしたが転校させました。この入院のおかげで子供と別れられ、三食昼寝付、そう気持ち切り替えたらリフレッシュタイムという神様からの贈り物でした。子育てに前向きになれたきっかけにもなりました。

今、私は小学校で読み聞かせをしています。説教おばさんになり命の大切さ「いじめはいかんよ」「自転車は気をつけないと死んだら生き返らん」とよなど訴えています。この間は、おしりかじり虫を皆で踊り大笑いして来ました。目標は「一日一回大笑い」です。

皆さん、二十代から勇気を出してがん検診を受けましょうね。私のように丈夫だと思っけていても、がんは出来るんですから。

今回は、赤井の西口美香さんに登場していただきます。

わがまち 再見

熊本県消防学校

熊本県消防学校は、惣領の九州自動車道西側にあります。自動車道を走るとき、高いコンクリートの塔が見えるところです。消防学校は「消防組織法」に基づき各都道府県に1校ずつ設置されており、県消防学校は熊本県で唯一の消防教育・訓練施設です。

◆昭和五十六年、益城町に

消防学校の歴史は、昭和二十五年、熊本市九品寺に開設された県消防訓練所に始まり、三十八年に同市横手に本格的な消防学校が開設されました。

益城町に新築移転したのは五十六年。民家から遠く離れた自然豊かな環境が、選定のポイントだったようです。

正門を入ると、広大な敷地（四・四二畝）にクスやケヤキの大木が枝を広げ、本館、寄宿舎、武道場などが点在しています。中でも一番目を引くのが、二本の訓練塔です。一本が十階建て、もう一本が六階建て。ここに消火設備、緩降機、垂直固

県下で唯一の消防学校

⑥

定はしご、煙迷路訓練室など訓練の中枢機能が集中しており、おなじみのロープで空中を渡る訓練もここで行われます。

◆すべて合宿訓練

この学校で行われる教育は、消防職員（地方公務員）を対象にしたのが、初任教育（六カ月）、専科教育など。消防団員を対象にしたのが普通教育（二〜三日）、専科教育など。すべて寄宿舎に泊まり込んでの集団教育と訓練です。

現在、熊本県内の消防職員は二千三百三十一人、消防団員は三万五千人。ほとんどのファイヤファイターが一度はこの学校の門をくぐっていることになりました（これからの人も）。（T）

